















1901

第 二 〇 號

秘 密

大 臣 官 房 了 結 明 治 年 七 月 二 日	大 臣 官 房 領 受 明 治 年 七 月 廿 九 日	課 長 提 出 明 治 年 六 月 廿 日	主 務 局 領 受 明 治 年 六 月 廿 日	主 務 局 領 受 明 治 年 六 月 廿 日	裁 決 	受 審 領 受 陸 軍 部 領 受 第 二 〇 二 五 號	受 審 領 受 陸 軍 部 領 受 第 二 〇 二 五 號			
主 務 局 長 			參 事 官 			次 官 			件 名 銳 利 火 砲 研 究 三 箇 事 件	廣 名 軍 務 局 砲 兵 課
主 務 局 長 			主 務 課 長 			主 務 課 長 			主 務 課 員 	主 務 課 員 
審 案 筆 記 者 			審 案 筆 記 者 			主 務 課 員 			主 務 課 員 	主 務 課 員 

通 謀 授

次官ヨリ大本営陸軍参謀次長第一
第二第三第四軍参謀長 満洲軍總司
令部参謀長へ

今般技術審査部 ヲレテ第一軍ニ於ケル戦
術ヲ研究セシメラレテ憂具成績別紙ノ通
有之矣奈為参考及通牒矣

陸軍省 満密發第一二四一號

七月一日

秘

華 揭 版 用

第一軍ニ於テ函獲シタル千九百年式露國野砲ノ研究
此研究ハ敵砲兵ノ威力ヲ明カニシテ作戰上ノ參考ニ供
シ併セテ戰利砲及其彈藥ヲ利用スルノ利害ヲ講
スルニ在リ

研究ノ爲メノ技術審査部ヲシテ下志津原ニ於テ
第一軍ヨリ送付セシ千九百年式露國野砲
ヲ以テ十個ノ戰利捕獲彈ヲ射撃手セシメタリ
其成績左ノ如シ

射撃ヲ實施 六月十八日午前ヨリ午後ニ至ル

天候微雨 風力微 射距離約四千九百米

十九百年式西國野砲

砲身ハ每發自動的ニ復座シ砲車ニ在ルニ在テ復座スルコト無キヲ以テ我野砲ノ如ク一々之ヲ復座セシムルノ必西友ナク又彈丸ト藥筒トハ一體ニシテ所謂完全彈藥筒ト爲シアルヲ以テ其射擊速度ハ我三十一年式速射野砲ノ射擊速度ニ比シテ著シク大ナリ然レモ每發砲架頭仰起スルヲ以テ火地ノ軸心砲車ノ兩輪之間ニ在ル時（此藥架ハ射擊開始時ニ於テ左姿勢ニシテ之ノ方向躲避ノ修正ヲ車軸上ニ於テスル）火地ノ軸心ハ兩輪之間ニ在シテ中夾ミアルガリ（外ハ兩輪及ホス力者ニシテ是レ

準備版用

ヲ生シ從テ漸次ニ方向躲避ヲ生スルニ至ル

三、露國野砲用禮働信管

著發積能ハ真好ナリ、曳火核能ハ正ニカラズ同分画ニテ
發射セシ景況左ノ如シ

本距離

信管距離

破環高

21.150m

21.600m

1.25m

==

==

==

==

==

2.15

==

21.600

2.15

==

==

2.15

三、露國野砲榴散彈

播磨散彈ノ威カ其内容丸子ニ在リ存スル諸國榴散彈丸
 子ハ發射後著シク衰敗シ反テ其効力ハ微弱ナリ今其自因
 フ様ボスルニ西諸國ニテハ爆煙ノ濃密ナルヲ故スル為メ
 ナリチモニートトマゴ子シユムノ粉末ヲ丸ニ目取下層目ニ填實スル
 ヲ以テ初發ノ剝皮ハニ停リ内容丸子ノ全部ハ此終末内ニ壓
 迫セラレ候テ著シク其效ヲ衰ス
 矣事タル他ニ尚ホ譯左アリ他ナレ榴散彈ノ彈体ニ腔
 鏡ノ痕跡ヲ印セルコト是ナリ元來腔鏡ノ吻合スル部
 分ハ彈帶ニシテ彈体ニハ腔鏡ノ痕跡ヲ見ルベキ筈ナキニ
 其之アルハ彈体ノ膨脹スルモノタルコト明カナリ而シテ其
 如此膨脹スルハ前ニ述ブル如ク初發ノ激突ノ為メ榴散

準備版用

彈因密分子ノ全部後方ニ壓迫セラレハ力故ニ彈体又ニ撞ハ
ズシテ遂ニ膨脹スルモノナリ

桶内散彈ノ彈体ハ其ノ着弾セルモノニ在ラハ通常着弾スル
コト無シトモ其ノ射火セルモノハ彈体ヨリハたゞニ破損シ徒

ラ分子ヲシテ桶内散彈々道ノ方向ト直角ノ方向ニ飛散セシ
ムルコトト爲ル

以上ノ各理由ニ依リ分子束集束ノ状況ハ某一點ニ集密ニ他

ハ稀薄ニシテ始ント集束収ヲササヌ道ニ在リ極シテハ

ラ以テ破初撃点ノ至近ニハ稍々効力アリトモモカヒク破撃点

ヲ達カルトキハ始ント効力アラザルナリ

結論

之ヲ要スルニ十九百年、西國砲其射距離ニ於
 テ至ニ其射擊ノ速度ニ於テ著シク優劣アリト云其
 信管ハ不正ニシテ其幅散揮ノ効力ハナル故ニ其
 威力ハ微弱ナリ而シテ此種ノ大砲ニ効力大ナル彈丸ヲ
 附屬スルニ非レハ之ヲ以テ砲隊ヲ組織スルノ利ヲ認メ
 ガルナリ